

## 第84回テーマ： 六甲にもいる ヒメボタル



ヒメボタル（オス）

### 講演内容

- 六甲山にもいる  
森のホタル「姫蛍」
- 日本のホタル
- ヒメボタルの不思議

実施日：平成22年3月20日（土）  
午後1時～3時45分  
場 所：六甲山地域福祉センター



講師：安岡 拓郎さん  
プロフィール

1982年神戸市生まれ、27歳。兵庫県立神戸高等学校卒業、神戸大学農学部生物環境制御学科卒業、神戸大学大学院自然科学研究科修了。ひとはく連携活動グループ「テネラル」所属。佐用町昆虫館の指定管理者、NPO法人「こどもとむしの会」に参加。

### 六甲山は春の陽気

午前10時の六甲山は晴れたり曇ったりで、気温は12℃以上と温かく、近畿自然歩道沿いでは満開のアセビの花も目にしました。講演会場の六甲山地域福祉センターでは、お世話になっていたストーブにもお休みいただきました。



春を告げるアセビの花

### ヒメボタルの不思議に魅せられた安岡さん

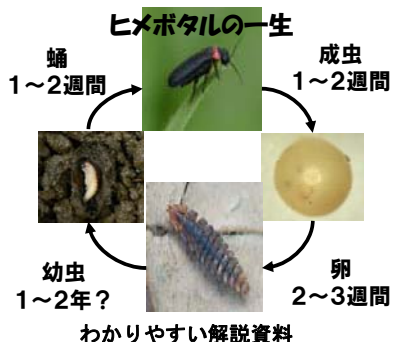
講師の安岡 拓郎さんは神戸大学の大学院生（博士課程後期）です。市民セミナーの講師としては最年少で、若手の昆虫研究者にご登場いただき今後の楽しみが増えました。

学部生時代に研究室のOBである県立人と自然の博物館の主任研究員の八木 剛さんに出会ったのが、ヒメボタルの研究を始めたきっかけで、生態がよくわからないことに探求心が刺激されたとのこと。NPO法人「こどもとむしの会」にも加わっておられて、週末は佐用町昆虫館のボランティア活動にも注力されています。

### わかりやすいホタルの解説に一同が感心

講演の参加者は17名と少人数でしたが、活発な質問が飛び交いました。ホタルについての理解を深めて、ヒメボタルの観察に興味を強めるようになりました。

ホタルの標本箱などを携え、非常にわかりやすいパワーポイントも準備されて、用意周到でした。



よく知られているゲンジボタルやヘイケボタルは水辺に生息しているのに対して、ヒメボタルは森や草原に棲んでいるという違いを話されました。清流に棲むホタルというイメージを覆された人も多かったようです。

続いて、ヒメボタルの「金ボタル」と呼ばれる発光など、解明されていない生態の特徴について説明されました。研究テーマの発光時間帯について、発光時間の早い種類と遅い種類を全国地図で示された分布などに、驚きの声が上がりました。

六甲山にいる7種類のホタルや、ヒメボタルの観察会についての案内もされました。六甲山などでのヒメボタルの観察・調査を身近に感じて、興味を高める機会になりました。

### 六甲山のヒメボタルの生態を観察したい

「大学入学までホタルを見たことがなかった」という安岡さんが、ヒメボタルの生態解明に地道な観察を続けられていることに敬服しました。六甲山でのヒメボタルの観察・調査にご協力いただき、環境学習の定番メニューにしたいと思いました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

### 参加の感想 高尾 忠男さん

今回初めて参加させていただきました。自然に囲まれた中でセミナーは、これまで経験したことがなく、まずこの環境を非常に気持ちよく感じました。

そして講演を聴いて、身近に感じていたホタルが、実は多くの謎に包まれた生態であったことには驚きました。そこに研究の面白さがあるとおっしゃっていた安岡先生の言葉から、深い教養の中の純粋な気持ちを感じました。心地よい環境、分かりやすい講演をありがとうございました。



主催：六甲山を活用する会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館  
後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】  
イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、  
公益信託自然保護ボランティアファンド、  
公益信託TaKaRaハーモニストファンド